

【様式1】

平成31年4月 日

## これからの時代に求められる資質・能力を育むための カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究

### 実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

機関名 尾道市教育委員会  
所在地 尾道市久保二丁目21番12号

代表者職名 教育長  
氏名 佐藤 昌弘 印

平成31年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」の実施計画書を次のとおり提出します。

担当者所属	職名：指導主事
	氏名：才谷 瑛一
電話番号	: 0848-20-7455
FAX番号	: 0848-37-3004
E-mail	: ed-shidou@city.onomichi.hiroshima.jp

# 1. 実践地域における研究の概要

## (1)「カリキュラム・マネジメントの手引き」の構想

はじめに

### 第1章 問題と目的

第1節 中学校区のカリキュラム・マネジメントに関する現状と問題

第2節 研究の目的

カリキュラム・マネジメントの充実を図るための実証的な調査研究を通して、組織的かつ計画的に中学校区全体の教育活動の質の向上を図るとともに、カリキュラム・マネジメントの手法や内容等の普及に資する。

### 第2章 研究の方法

第1節 研究の方法（中学校区としての進め方等）

第2節 研究組織（中学校区としての組織の作り方等）

第3節 研究計画（中学校区としての計画の立て方等）

### 第3章 研究の概要

第1節 中学校区としての研究構想及び全体計画、研究体制等

第2節 各小学校及び中学校の研究構想及び全体計画、研究体制等

### 第4章 実践事例

#### ～中学校区としてのカリキュラム・マネジメント～

第1節 テーマ：a

中学校区で育てたい豊かな心と体の育成を図るための小中9年間の系統性を踏まえたカリキュラム・マネジメント（向島中央小学校）

第2節 テーマ：b

中学校区で育てたい言語能力の育成を図るための小中9年間の系統性を踏まえたカリキュラム・マネジメント（三幸小学校、高見小学校）

第3節 テーマ：c

中学校区で育てたい資質・能力の育成を核とした小中9年間の系統性を踏まえた総合的な学習の時間におけるカリキュラム・マネジメント（向島中学校）

※各事例は、カリキュラム・マネジメントに係る三つの側面を踏まえ、小中合同で行ったカリキュラム・マネジメントの実際を記載する。

※小中合同の研修会の様子や研修資料、演習シート等を付録に掲載する。

※事例にはアンケート等の調査研究を含める。

### 第5章 成果と課題

第1節 中学校区としての成果

第2節 中学校区としての課題

※アンケート等の調査結果を踏まえる。

### 第6章 まとめ

第1節 中学校区におけるカリキュラム・マネジメントの手法を他地域へ汎用させるために

### 第7章 引用文献等

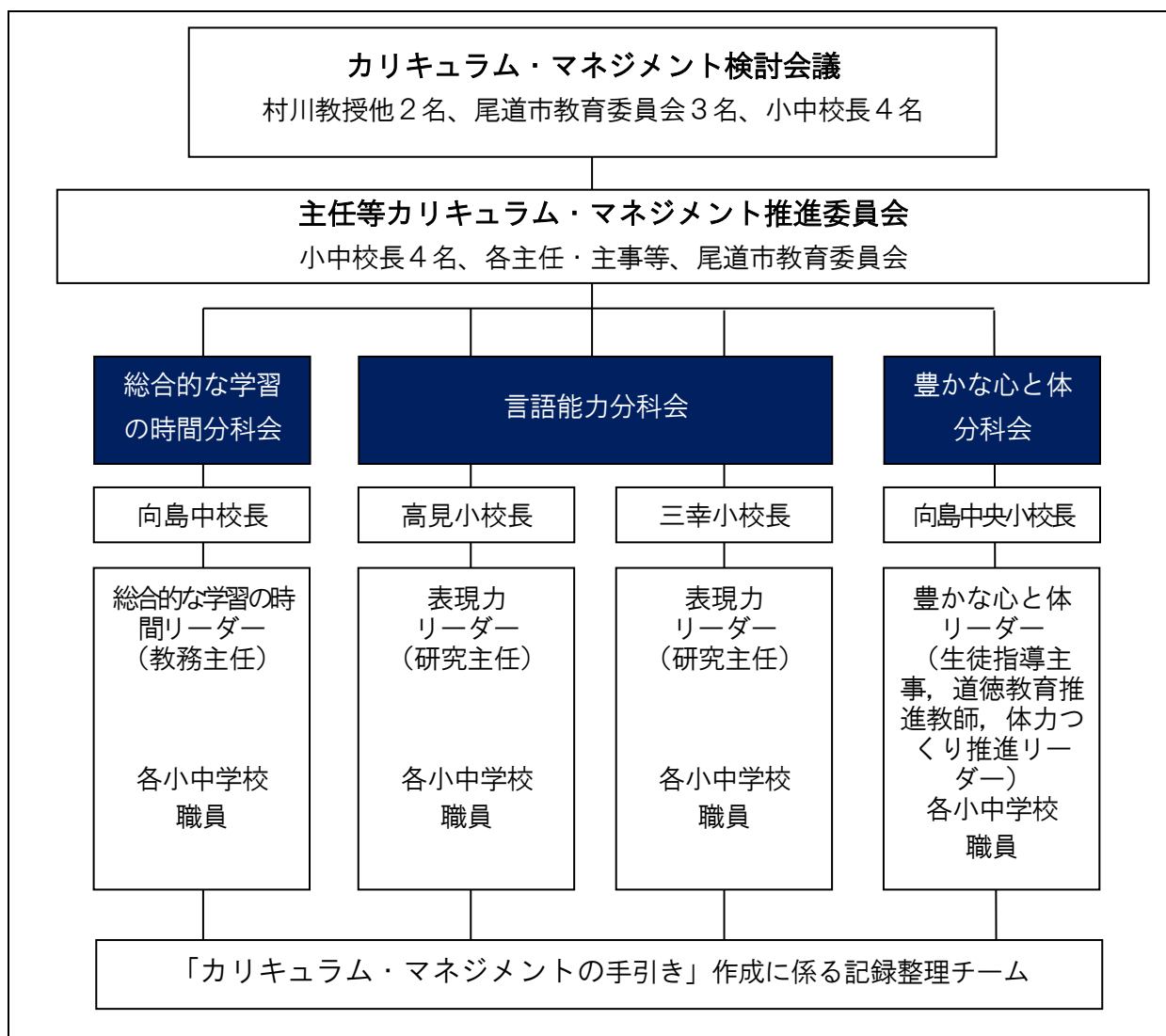
付録（カリキュラム・マネジメントに係る研修資料等）

おわりに

## (2) 実践校及び選定理由

実践校名	選定理由
尾道市立向島中学校	<p>本中学校区は1中学校・3小学校で構成されており、現在、中学校区での合同研修会を実施しており、校区として育成を目指す資質・能力の育成に向け、全体計画を構想し、カリキュラム・マネジメントを始めている。尾道市は、平成30年度からカリキュラム・マネジメントに係る研修を年間を通じて実施しており、本事業の実践校として本中学校区を選定することにより、中学校区として系統的・組織的・計画的にカリキュラム・マネジメントに取り組むための実践を手引きとしてまとめて発信することで、これから他校や他地域でカリキュラム・マネジメントを進めていく際、参考にしていただけるものが発信できると考えている。</p>
尾道市立高見小学校	
尾道市立向島中央小学校	
尾道市立三幸小学校	

## (3) 研究体制（「カリキュラム・マネジメント検討会議」を位置づけること）



(カリキュラム・マネジメント検討会議の構成)

No.	氏名	所属・役職等
1	村川 雅弘	甲南女子大学 教授
2	深澤 広明	広島大学 教授
3	杉原 妙子	尾道市教育委員会 学校教育部長
4	豊田 浩矢	尾道市教育委員会 学校教育部 教育指導課長
5	石本 美喜	尾道市教育委員会 学校教育部 教育指導課長補佐兼係長
6	才谷 瑛一	尾道市教育委員会 学校教育部 教育指導課 指導主事
7	濱本 かよみ	向島中学校 校長
8	楠見 仁美	高見小学校 校長
9	本藤 展康	向島中央小学校 校長
10	土居 理恵	三幸小学校 校長

(4) 2年間の研究スケジュール

(平成31年度)

月	取組内容	
	中学校区での取組	市教育委員会としての取組
4月	各カリマネ分科会	
5月	カリキュラム・マネジメント検討会議（本事業の概要及び計画、アンケート調査の内容等） 各カリマネ分科会	カリキュラム・マネジメント研修（「尾道版『学びの変革』推進協議会」を兼ねる）
6月	主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会（カリキュラム・マネジメント検討会議を踏まえた具体化）	先進校視察
7月	各カリマネ分科会	
8月	カリキュラム・マネジメント検討会議（各実践校の取組、アンケート調査の内容等） 主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会（カリキュラム・マネジメント検討会議を踏まえた具体化）	カリキュラム・マネジメント研修（校長会等の研修を兼ねる）
9月	各カリマネ分科会	
10月	アンケート調査 各カリマネ分科会	カリキュラム・マネジメント研修（「尾道版『学びの変革』推進協議会」を兼ねる）
11月	研究会（研究授業及び各実践校の取組公開、アンケート調査結果公開） 各カリマネ分科会	
12月	カリキュラム・マネジメント検討会議（各実践校の取組、アンケート調査結果等） 各カリマネ分科会	先進校視察

1月	主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会（成果と課題、2020年度の「カリキュラム・マネジメントに係る手引き」作成に向けた計画等）	カリキュラム・マネジメント研修（「尾道版『学びの変革』推進協議会」を兼ねる）
2月	アンケート調査 成果等の検証 各カリマネ分科会	
3月	各カリマネ分科会	

（2020年度）

月	取組内容	
	中学校区での取組	市教育委員会としての取組
4月	アンケート調査 各カリマネ分科会	
5月	カリキュラム・マネジメント検討会議（今年度の研究の概要及び計画、「カリキュラム・マネジメントに係る手引き」作成に向けた計画等） 各カリマネ分科会	カリキュラム・マネジメント研修（「尾道版『学びの変革』推進協議会」を兼ねる）
6月	主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会（カリキュラム・マネジメント検討会議の具体化）	先進校視察
7月	アンケート調査 各カリマネ分科会	
8月	カリキュラム・マネジメント検討会議（各実践校の取組、カリキュラム・マネジメントに係る手引き、アンケート調査結果等） 各カリマネ分科会	カリキュラム・マネジメント研修（校長会等の研修を兼ねる）
9月	主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会（カリキュラム・マネジメントに係る手引き、成果の検証等）	
10月	各カリマネ分科会	カリキュラム・マネジメント研修（「尾道版『学びの変革』推進協議会」を兼ねる）
11月	研究会（カリキュラム・マネジメントに係る手引きの部分公開、成果の検証公開等）	
12月	各カリマネ分科会	先進校視察
1月	主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会（カリキュラム・マネジメントに係る手引き、参考資料等の提出について）	カリキュラム・マネジメント研修（「尾道版『学びの変革』推進協議会」を兼ねる）

2月	各カリマネ分科会	
3月	各カリマネ分科会	

## (5) 本研究に関連する実績

本中学校区は、1中学校・3小学校で構成されており、平成30年度は各学校において「目指す資質・能力の育成」を図るため、教科横断的な視点で単元を関連付けた年間指導計画一覧表を作成し、カリキュラム・マネジメントを進めてきた。

また、中学校区で資質・能力の育成に向けた研究を推進するために全体構想図を作成しており、中学校区の校長4名による会議を毎月実施するとともに、校長を含めた「主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会」の開催をスタートさせている。

平成30年3月に実施した「主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会」では、各主任・主事等が4つの分科会に分かれ、次の4点について分担して交流し、小中9年間の系統性を協議した。

1. 教務主任4名による各学校の総合的な学習の時間で育てたい資質・能力の交流、目指す姿の系統性に関する協議
2. 研究主任4名による各学校の児童生徒の表現力や言語能力の実態交流、目指す姿の系統性に関する協議
3. 生徒指導主事4名による各学校の生徒指導上の諸問題に関する交流、指導の系統性に関する協議
4. 体力づくり及び豊かな心担当者4名による各学校の児童生徒の体力に係る諸問題に関する交流、指導の系統性に関する協議

このように「主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会」では、校長のリーダーシップのもと、各主任・主事等が各学校の課題や小中9年間の系統性を協議することを通して、中学校区としての系統表や系統図の作成を始めており、平成31年度は、本委員会での成果及び確認した事項を各小・中学校においてさらに広げ、具体的な実践につなげていく計画である。

## 2. 実践校における研究の概要

### 【向島中学校】

#### (1) 研究テーマ

##### 研究テーマ

「中学校区で育てたい資質・能力の育成を核とした小中9年間の系統性を踏まえた総合的な学習の時間におけるカリキュラム・マネジメント」

##### 取組内容

1. 「主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会」において、平成30年度の各学校の総合的な学習の時間の全体計画、シラバスから内容のつながり・資質能力のつながりを整理する。義務教育終了時に付けたい力を確認し合う。
2. 1を受けて、学校の活動内容や資質・能力について見直し・検討する。
3. 検討した資質・能力について確認し合い、小中の系統性を検討し、確認し合う。

4. 全体計画の作成・改善、単元開発を行う。
5. 作成した全体計画、単元計画（年間指導計画）を持ち寄り、内容と資質・能力でつながりを再検討する。（主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会または各分科会において）
6. 主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会等で出た意見をもとに見直しを行う。
7. 9年間の系統的なカリキュラムを完成させる。総合的な学習の時間をカリキュラムの軸としたカリキュラムマップを作成する。
8. 実践・検証を行う。
9. 1学期に1回、実践と成果と課題を持ち寄り、情報の共有化と改善策を検討する。この繰り返しを行う。作成したカリキュラムを実践しながら、変えていく。（主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会または各分科会において）

## （2）学校・地域の実態

### ・生徒の学習面・生活面の実態

本校の生徒は、全体的には落ち着いて学校生活を送ることができている。

学習面では、学習規律は確立され、教師の指示はよく聞くが、指示待ち傾向がある。

平成30年度全国学力・学習状況調査では、全国平均と比較すると国語Aは-0.1、国語Bは、-1.2、数学Aは+2.9、数学Bは+1.1、理科は+1.9であった。どの教科も思考力・判断力・表現力をどのようにつけていくかが課題である。教育研究の方向を「資質・能力の育成を目指した課題設定の工夫を通して、生徒が主体的に学びに向かう授業づくり」とし、総合的な学習の時間や教科を中心に研究授業を行いながら、授業改善を行ってきた。

生活面では、学校行事や生徒会行事などは、生徒会執行部役員や実行委員が中心となり、生徒が主体的に取り組むことができている。一方、自他の理解能力やコミュニケーション不足、耐える力が不足し、生徒同士の些細なトラブルはある。また、本校では、不登校生徒が平成30年度は、20名（全校の6.4%）おり、大きな課題となっている。

以上のような実態から、本校が目指すべき資質能力を、「主体性」「柔軟性」「表現力」とし、教育活動を実践している。

### ・教員の年齢構成や人数

教員数は、20名である。教員の年齢構成は、20代が5名、30代が5名、40代が2名、50代が7名、60代が1名である。

年齢構成は、すべての世代の教職員が配置されていることはよい。しかし、50代以上が40%を占め、50代の教職員のモチベーションをどのように上げていくか大きな課題となる。若手教職員層を核にして、学校を動かしていく組織マネジメントを実践していく必要がある。

### ・勤務状況の実態

本務者18名、臨時的任用職員1名、非常勤講師2名である。本務者の中には、再任用時短勤務者1名、育児短時間勤務者1名がいる。勤務状況は、難しさもあるが、「やりながら、動かしながら、変えていく」組織文化をカリキュラム・マネジメントをすることで創り上げていきたいと考える。

・地域・家庭の実態

家庭や地域は、保護者アンケート「子どもを向島中学校に通わせてよかった」という項目に95.9%の保護者が肯定的回答をするなど、本校教育に対して一定の理解と協力をしていただける状況にある。町内には、農業からサービス業、造船業まで、幅広い産業が存在し社会参画や社会貢献活動等の直接体験活動を行うのに適している。また、「洋ランセンター」「海洋センター」「マリンユースセンター」などの公共施設もあり、多様な教育活動を展開しやすいという利点もある。

就学支援を受けている家庭は全体の20.9%、一人親家庭は、全体の18.3%であり、様々な視点での支援が必要な家庭が年々増加傾向にある。家庭教育の領域を学校教育で補っていかねばならないことが増えている。

本校には、向島中央小学校、高見小学校、三幸小学校の3学区から生徒が入学してくる。小さな学区の集まりではあるが、それぞれの実態と課題は違っている。この違いを小中連携を密にする中で、整理し、向島中学校ブロックとして、まとめ、9年間のカリキュラム（しまっ子 志 プロジェクト）をつくることで、本校が抱えている課題を解決していけるものとする。

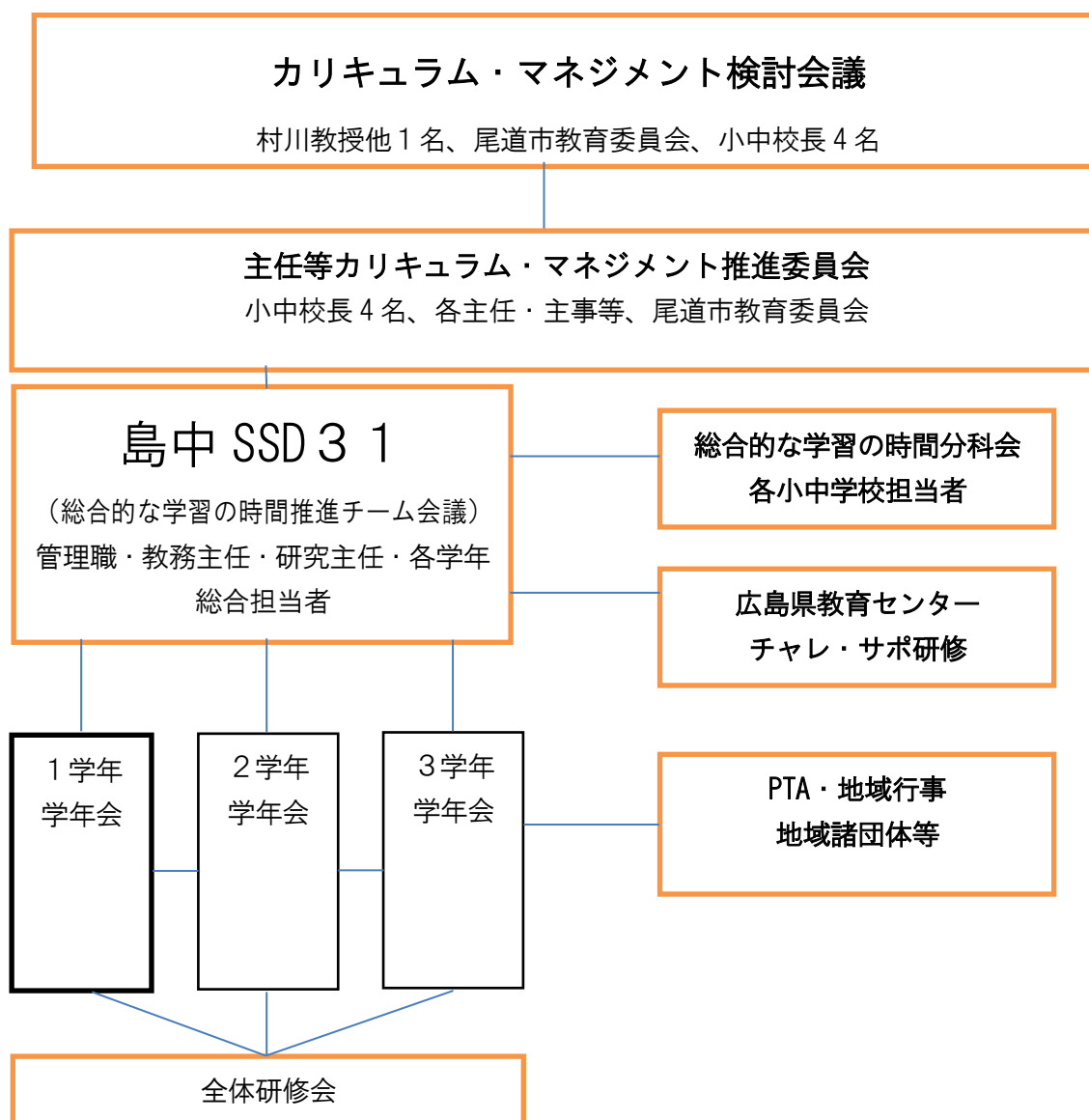


### (3) 研究体制

校内では、教務主任をリーダーとした SSD 3 1（総合的な学習の時間推進チーム会議）を結成し、本校の核となり研究を進めていく。SSD 3 1 のメンバー構成は、管理職、教務主任研究主任、各学年総合的な学習の時間担当者の 7 名とする。

SSD 3 1 では、研究主題や研究の方向性、研究内容、研究推進計画等を立て、全員に周知する。SSD 3 1 の会議で決まったことは、各学年の総合的な学習担当者が、学年に下ろし、学年会で周知・徹底を図ったり、協議を行う。また、学年会で協議したことを SSD31 に返し、協議・決定していく。

全体研修会を持ち、情報共有を行い、組織的に動いていく。



## 【高見小学校】

### (1) 研究テーマ

#### 研究テーマ

中学校区で育てたい言語能力の育成を図るための小中9年間の系統性を踏まえたカリキュラム・マネジメント

#### 取組内容

- 1 「主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会」において、平成30年度の各学校の生徒指導上の課題及び体力向上に係る取組を踏まえ、総合的な学習の時間の全体計画、シラバスから内容のつながり・資質能力のつながりを整理する。義務教育終了時に付けたい力を確認し合う。
- 2 1を受けて、各学校の活動内容や資質・能力について見直し、検討する。
- 3 検討した資質・能力について確認し合い、小中の系統性を検討し、確認し合う。
- 4 各校の全体計画及び中学校区全体の全体計画作成・改善・単元開発を行う。
- 5 作成した全体計画、単元計画（年間指導計画）を持ちより、内容と資質・能力でつながりを再検討する。（主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会または各分科会において）
- 6 主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会等で出た意見をもとに見直しを行い、9年間の系統的なカリキュラムを完成させる。（言語能力〈表現力〉を高め学びの主体者を育てるために、総合的な学習の時間や他の教育活動に横断的な視点を取り入れた指導計画を作成する。）
- 7 実践・検証を行う。
- 8 1学期に1回、実践と成果と課題を持ち寄り、情報の共有化と改善策を検討する。この繰り返しを行う。作成したカリキュラムを実践しながら、より効果的で実践が容易なものにマネジメントしていく。（主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会または各分科会において）

### (2) 学校・地域の実態

#### ・児童の学習面・生活面の実態

本校の児童は全体的に落ち着いて学校生活を送っている。

学習面では、低学年からの学習規律が定着し、前向きに学習に取り組んでいる。しかし、主体的な学びについては今後の取組を充実させていかななくてはならない。

平成30年度全国学力・学習状況調査では、全国平均と比較すると国語Aは+3.3、国語Bは+8.3、算数Aは+1.5、算数Bは+10.5、理科は+6.7であった。どの教科も平均は上回っているが、基礎となる力の十分な定着と活用力（思考力・判断力・表現力）に課題がある。

授業改善を進めるにあたっては、理科・生活科を中心とした教科で得た知識等や地域の自然環境などを基盤にして総合的な学習の時間の単元構成を見直すとともに、カリキュラム・マネジメントを進め、児童の言語能力の育成を図りたい。

生活面では、学校行事等を含めた教育活動全般において、児童は目標をもって活動している。全校児童数は105名で、学年間の仲が良く、特に高学年が低学年に対して優しく温かく接しており、交流も比較的活発である。しかし、思ったことを相手にわかるように説明したり相手の気持ちを聞いてどうすればよいかを考えたりすることが苦手な児童が多く、それがもとでトラブルを起こすこともある。また、人前で自分を表現したり主張したりすることは苦手に思っている児童も多い。多くの学習体験をさせながら、レジリエンスを鍛え、気づき、考え、表現（行動）していく力を高めていく。

・教員の年齢構成や人数

教員数は11名である。年齢構成は20代が5名、30代が1名、40代が2名、50代が3名である。学級担任は、20代、30代がほとんどで、教職経験4年目までの者が3名おり、指導力向上が大きな課題である。

・勤務状況の実態

本務者が9名で、臨時的任用職員が2名である。どの職員も前向きに取り組むので、研究意欲を高め授業改善を進めることで、児童の学習意欲、学力の向上等へつなげていきたい。

・地域・家庭の実態

家庭や地域は、本校教育に対して一定の理解と協力をいただける状況にある。保護者の学校教育に対するアンケートでの評価は常に高い。また地域については、高見小学校区の自然環境等を生かした理科・生活科や総合的な学習の時間の学習に大いに協力していただいている。また、「洋らんセンター」「マリニューズセンター」「広島大学理学研究科臨海実験所」「漁業協同組合」などの施設が校区内にあり、総合的な学習の時間や生活科等を中心に協力していただいている。観光面で新たな商業施設等もできており、多様な教育活動を展開できる利点がある。

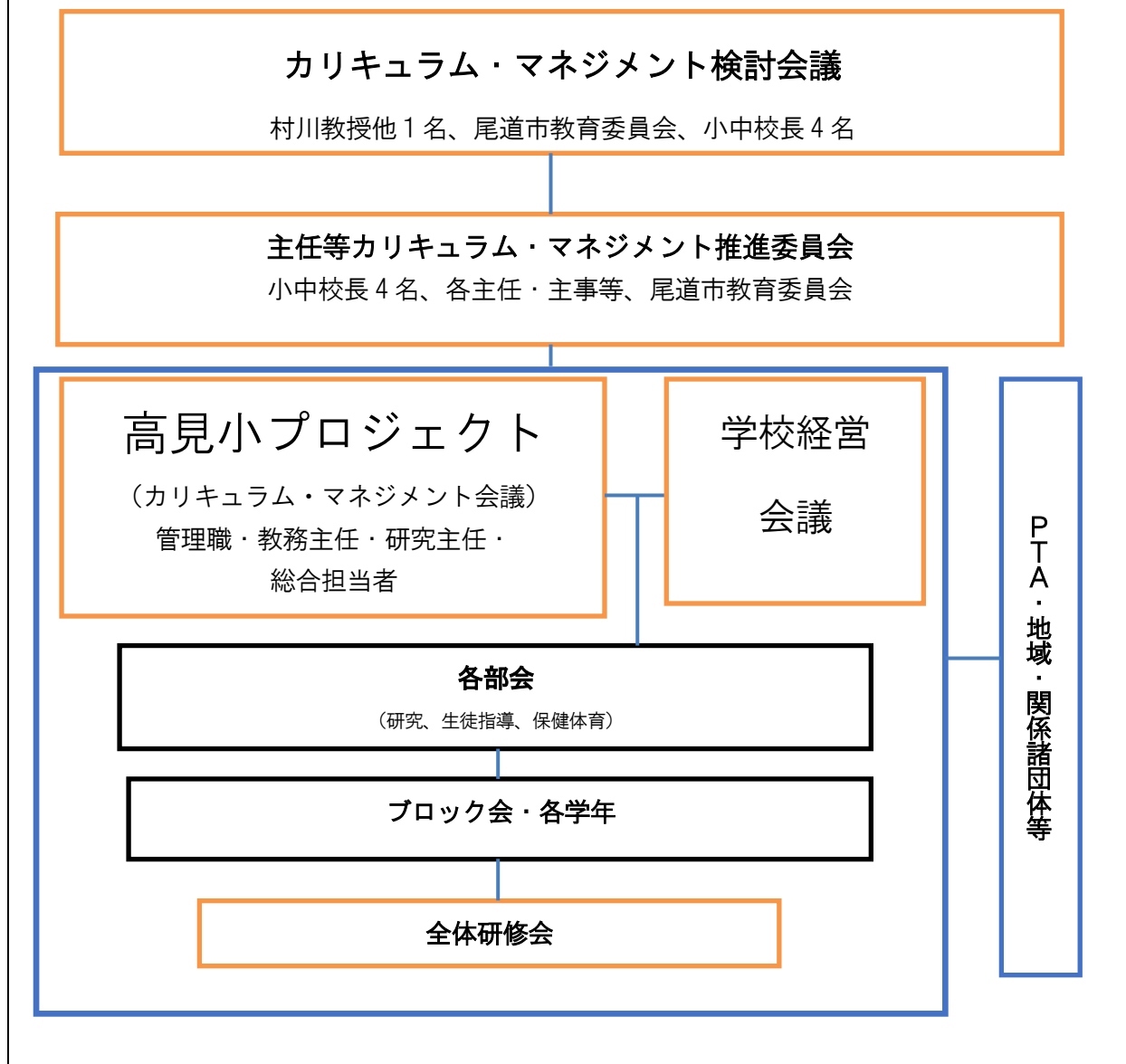
就学支援を受けている家庭は全体の約18%で、年々増加傾向にある。家庭教育の領域を学校で補っていかねばならないこともある。

### (3) 研究体制

中学校ブロックでの研究推進を本校では高見小プロジェクトとし、教務主任を全体のリーダーとして、教務部を中心に進めていく。特に本カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究の検討については、管理職、教務主任、研究主任、総合的な学習の時間担当者の5名をメンバーとする。

総合的な学習の時間を核にしたカリキュラム・マネジメントに加え、中学校ブロックで重点取組とする言語能力の育成については教務主任を、学習の基盤となる資質・能力の育成を進める上での理科・生活科を基盤に据えた研究については研究主任をリーダーとする。

中学校ブロックでのカリキュラム・マネジメントの検討会議、主任等の推進委員会で検討した中学校卒業までにつけたい資質・能力の育成に向けて、高見小学校での取組の方向性について検討し、具体的な研究を推進していく。各学年での取組や具体的な指導内容等についてブロック、全体での研修を計画的・組織的に進めていく。



## 【三幸小学校】

### (1) 研究テーマ

#### 研究テーマ

中学校区で育てたい言語能力の育成を図るための小中9年間の系統性を踏まえたカリキュラム・マネジメント

#### 取組内容

1. 「主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会」において、平成30年度の各学校の生徒指導上の課題及び体力向上に係る取組を踏まえ、総合的な学習の時間の全体計画、シラバスから内容のつながり・資質能力のつながりを整理する。義務教育終了時に付けたい力を確認し合う。
2. 1を受けて、学校の活動内容や資質・能力について見直し・検討するとともに、重点を定める。
3. 検討した資質・能力について確認し合い、小中の系統性を検討し、確認し合う。
4. 各校の全体計画及び中学校区全体の全体計画の作成・改善、単元開発を行う。
5. 作成した全体計画、単元計画（年間指導計画）を持ちより、内容と資質・能力でつながりを再検討する。（主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会または各分科会において）
6. 主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会等で出た意見をもとに見直しを行い、9年間の系統的なカリキュラムを完成させる。（言語能力の育成を図るための系統性を踏まえた指導計画を作成する。）
7. 実践・検証を行う。
8. 1学期に1回、実践と成果と課題を持ち寄り、情報の共有化と改善策を検討する。この繰り返しを行う。作成したカリキュラムを実践しながら、より効果的なものに変えていく。（主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会または各分科会において）

### (2) 学校・地域の実態

#### ・児童の学習面・生活面の実態

本校の児童は、素直な児童は多いが、主体的に自ら進んで課題を設定し、判断し、取組を進める児童は少ない。また、少人数の固定化した人間関係を崩す必要があり、意図的に外部の力を借りたり異学年交流を設定したりと、個々の自分の殻を破る取組を進めているところである。

学習面では、学年差はあるものの、学習規律は確立されている。しかしながら、学力に個人差があり、個別指導が必要な児童も多い。

平成30年度全国学力・学習状況調査では、全国平均と比較すると国語Aは+1.3、国語Bは、-0.7、算数Aは-7.5、算数Bは-6.5、理科は-3.3であった。これらの結果から、教科を問わず、文章の内容を理解する「読むこと」、目的や意図に応じて必要な情報を整理し、自分の考えをまとめて「書くこと」や「説明すること」が課題である。結果を受けて、各学年で改善計画を立て、取組を進めているところであり、授業改善と反復学習の充実が急務である。

生活面では、昨年度と一昨年度大きないじめ事案が発生した。同一集団での育ちの中、多面的に人を見ていく力を付けていく必要がある。

中学校区の大きな課題でもある不登校児童はいないものの、年間10日以上欠席する児童も数名おり、くじけない心を育てる必要がある。

各職員が気づき力を高め、組織的に生徒指導に対応しているところである。

#### ・教員の年齢構成や人数

教員数は、11名である。教員の年齢構成は、20代が3名、30代が1名、40代が2名、50代が4名、60代1名である。

年齢構成は、若手からベテラン層までの配置されておりバランスはよい。しかし、経験年数の少ない職員が多いため、取り組みの方向性を示しても温度差のない徹底した組織的な取り組みが出来にくいことが大きな課題である。

・勤務状況の実態

本務者9名、再任用短時間勤務職員1名、臨時的任用職員1名である。平成31年度は6学年中3学年の担任が異動となっており、様々な面で組織の取組の共有化が課題であり、「徹底と看とり」を短いスパンで回しながら学校経営を進める必要がある。

・地域・家庭の実態

保護者アンケートは、学校への満足度は93.0%の保護者が肯定的回答をするなど、本校教育に対して一定の理解と協力を頂いている。

本校は、3つの小学校が統合してできて33年目の学校である。

地域は、学校に大変協力的で、様々な教育活動に依頼すれば快く協力して下さる。わけぎやみかん等特産物が多くあり、学習活動に取り入れる素材が豊富である。

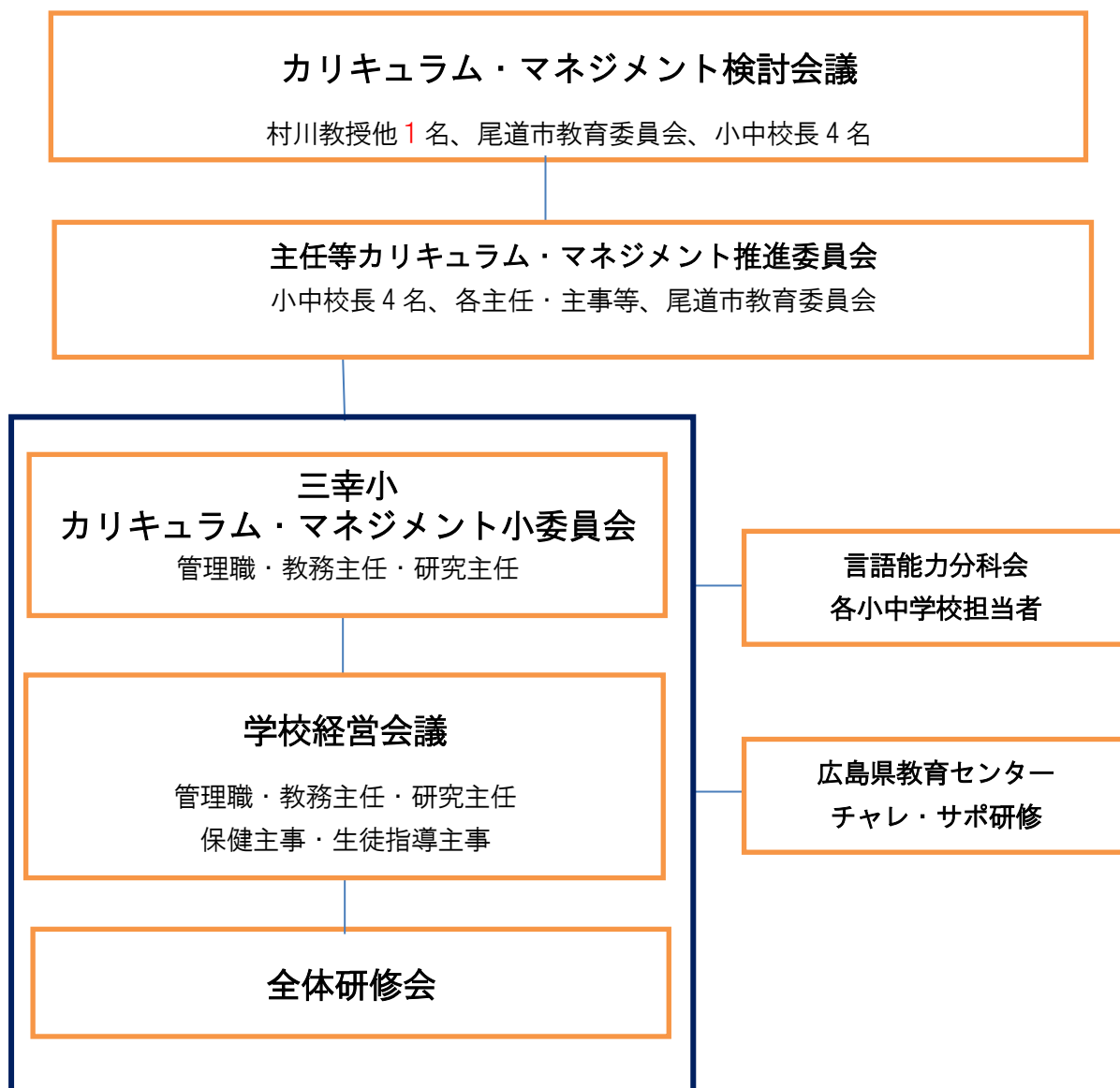
児童の家庭環境は、就学支援を受けている家庭は全体の21.4%、一人親家庭は、全体の20.0%であり、様々な視点での支援が必要な家庭が年々増加傾向にある。家庭教育の領域を学校教育で補っていかなければならないことが増えている。

### (3) 研究体制

校内では、教務主任を中核とし、研究を進めていく。

校内における研究を機能的に進めるために、カリキュラム・マネジメント小委員会を設置する。メンバーは、管理職・教務主任・研究主任である。小委員会で、研究主題や研究の方向性、研究内容、研究推進計画等を立て、学校経営会議で協議し、全員に周知する。

小委員会のメンバーにより、校内で温度差のない取組になるようスモールステップで取組を見取り、組織的な研究の推進を図る。



## 【向島中央小学校】

### (1) 研究テーマ

#### 研究テーマ

中学校区で育てたい豊かな心と体の育成を図るための小中9年間の系統性を踏まえたカリキュラム・マネジメント

#### 取組内容

- 1 「主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会」において、平成30年度の各学校の生徒指導上の課題及び体力向上に係る取組を踏まえ、総合的な学習の時間の全体計画、シラバスから内容のつながり・資質能力のつながりを整理する。義務教育終了時に付けたい力を確認し合う。
- 2 1を受けて、各学校の活動内容や資質・能力について見直し、検討する。
- 3 検討した資質・能力について確認し合い、小中の系統性を検討し、確認し合う。
- 4 各校の全体計画及び中学校区全体の全体計画作成・改善・単元開発を行う。
- 5 作成した全体計画、単元計画（年間指導計画）を持ちより、内容と資質・能力でつながりを再検討する。（主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会または各分科会において）
- 6 主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会等で出た意見をもとに見直しを行い、9年間の系統的なカリキュラムを完成させる。（心と体の育成を中核に据えた総合的な学習の時間をカリキュラムの軸としたカリキュラムマップを作成する。）
- 7 実践・検証を行う。
- 8 1学期に1回、実践と成果と課題を持ち寄り、情報の共有化と改善策を検討する。この繰り返しを行う。作成したカリキュラムを実践しながら、より効果的で実践が容易なものにマネジメントしていく。（変えていく。）（主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会または各分科会において）

### (2) 学校・地域の実態

#### ・児童の学習面・生活面の実態

本校の児童は一見すると大きな課題はないようにとらえられる。しかし、各学年とも学力の差が大きく、低学力の児童が細かい生徒指導上の問題を生起させることが多い。とりわけ4年生（H30年度）は昨年度以上に生徒指導上の諸問題である「暴力行為」「いじめ」を多発させた。一部の児童が中核となって生起させているが、このことはこれら児童が入学してからずっと引き続いている課題である。低学力の問題もあるが、これら児童に共通している事項として、発達障害としての診断が下りている児童が多いということも事実である。ただし、保護者が我が子の実態を認めないという事実もあり、そこへ取組が着手できない状態である。

中学校に進学すると「不登校」になる生徒が多いということが一番大きな問題であるが、本校では不登校児童は3年生女兒が1名である。不登校にどのような生徒がなっているのか、中学校区内での情報共有、実態把握を迅速に進め、小学校での未然防止の取組を進める必要が大きい。

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果は、全国平均と比較すると、国語Aは－3.7、国語Bは－4.7、算数Aは－5.5、算数Bは－8.5、理科は－5.3という低い結果であった。市比、県比とも大きくマイナスになっており、昨年度よりも低い結果が出てしまっている。知識、技能面での課題も大きいですが、全児童に共通して言えることは、主体的な学ぶ姿勢が育っていない、課題に粘り強く取組む能力が育っていないということである。これは同時に我々の授業に対する考え方（思



想)が変わっておらず、あくまでもドリル的な技能を高める学習を進めることで結果が出ると信じている部分も大きな要因であると考えている。これについては授業研究を通じて新たな学びに向かう授業改革に取り組んでいるところである。

・教員の年齢構成及び人数

教員数は教諭21名である。年齢構成は20代9人、30代3人、40代5名、50代4名であり、育休中の教員が2名いる。年齢構成はすべての世代で在籍していることは良いことであるが、年々新卒の新規採用教員が配置され、年齢が高い教員が退職等することから、確実に若い教員の多い学校になっている。このことから若手教職員の育成とともにそれら職員を教育活動の中核に据えて学校を動かす組織マネジメントの必要が急務になっている。(現在取り組んでいる状況である。)

・勤務状況の実態

非常勤講師2名、臨時的任用者2名の状況であるが、生徒指導に係る支援加配を置いていただき、生徒指導主事が常に機動的に動ける状況になっている。また、拠点校指導教員が1名配置されている。

各学年の人員配置については採用から4年以下の若手職員が多いため、若い教員同士が同学年の担任を組む状況にある。経験が浅いことによるマイナス面もあるが、共に競い合い助け合っていく「協働性」が育ってきている様子が見られる。

・地域・家庭の実態

家庭や地域は、本校教育に対して一定の理解と協力をしていただける状況にあるととらえている。しかしながら、変革を好まない風土や、根強い偏見等も存在しており、学校、学級経営には細心の注意が必要である。

町内には、農業からサービス業、造船業まで、幅広い産業が存在し社会参画や社会貢献活動等の直接体験活動を行うのに適している。また、「洋ランセンター」「海洋センター」「マリニューズセンター」などの公共施設もあり、多様な教育活動を展開しやすいという利点もある。

就学支援が必要な家庭が年々増加傾向にある。家庭教育の領域を学校教育で補っていかなければならないことが増えている。

### (3) 研究体制

校内では教科研究と並行してマネジメント研究を進める。研究体制は教務主任を中心にしたカリキュラム・マネジメント研究チームを核にし、各学年部、各分掌に広げ、マネジメントの実際及び検証等を進める。

本校はとりわけ、生徒指導面と道徳教育面、及び体力づくり面を中核に据えた総合的な学習においてカリキュラム・マネジメントの研究実践を進めるため、教務主任及び生徒指導主事、保健主事を中心にした校内研究になる。

#### カリキュラム・マネジメント検討会議

村川教授他 1 名、尾道市教育委員会、小中校長 4 名

#### 主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会

小中校長 4 名、各主任・主事等、尾道市教育委員会

#### 校内カリキュラム・マネジメント研究チーム

(生徒指導、道徳教育、体力づくりを中核に据えた総合的な学習の時間推進チーム会議) 管理職・教務主任・生徒指導主事・保健主事・各学年主任

### 3. 実践校の概要

選択した研究テーマ	c							
ふりがな 学校名	むかいしまちゅうがっこう 向島中学校				ふりがな 校長氏名	はまもと かよみ 濱本 かよみ		
所在地	〒722-0073 尾道市向島町16058-20 電話 0848-44-0416 FAX0848-44-1144 e-mail:mukaishima-j@onomichi.ed.jp							
(H31.3現在)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員数
学級数	3	3	3				9	23
児童生徒数	95	103	113				311	
担当者職名	教諭		担当者	渡邊 裕則				

選択した研究テーマ	b							
ふりがな 学校名	たかみしょうがっこう 高見小学校				ふりがな 校長氏名	くすみ ひとみ 楠見 仁美		
所在地	〒722-0073 尾道市向島町2116-3 電話 0848-44-0983 FAX 0848-44-5240 e-mail takami-e@onomichi.ed.jp							
(H31.4現在)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	6(7)	11
児童生徒数	14	18	24	9	17	23	105	
担当者職名	教諭		担当者	遠崎 且典				

選択した研究テーマ	b							
ふりがな 学校名	みゆきしょうがっこう 三幸小学校				ふりがな 校長氏名	どい りえ 土居 理恵		
所在地	〒722-0073 広島県尾道市向島町12617番地 電話(0848)44-0100 FAX(0848)20-6301 e-mailmiyuki-e@onomichi.ed.jp							
(H31.3現在)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	6(7)	11
児童生徒数	14	13	14	15	14	14	84	
担当者職名	教諭		担当者	吉原 明美				

選択した研究テーマ	a							
ふりがな 学校名	むかいしまちゅうおうしょうがっこう 向島中央小学校				ふりがな 校長氏名	ほんどうのぶやす 本藤 展康		
所在地	〒722-0073 尾道市向島町5979番地 電話 0848-44-0414 FAX0848-44-0664							

	e-mail mukaishimachuo-e@onomichi.ed.jp							
(H31.3 現在)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	3	13	21
児童生徒数	65	69	60	79	61	85	419	
担当者職名	教諭		担当者	上野貴司				